

令和8年産 コメ通信

第3号（令和8年5月15日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

適切な管理で初期生育の確保を！

1 気象と生育・作業状況

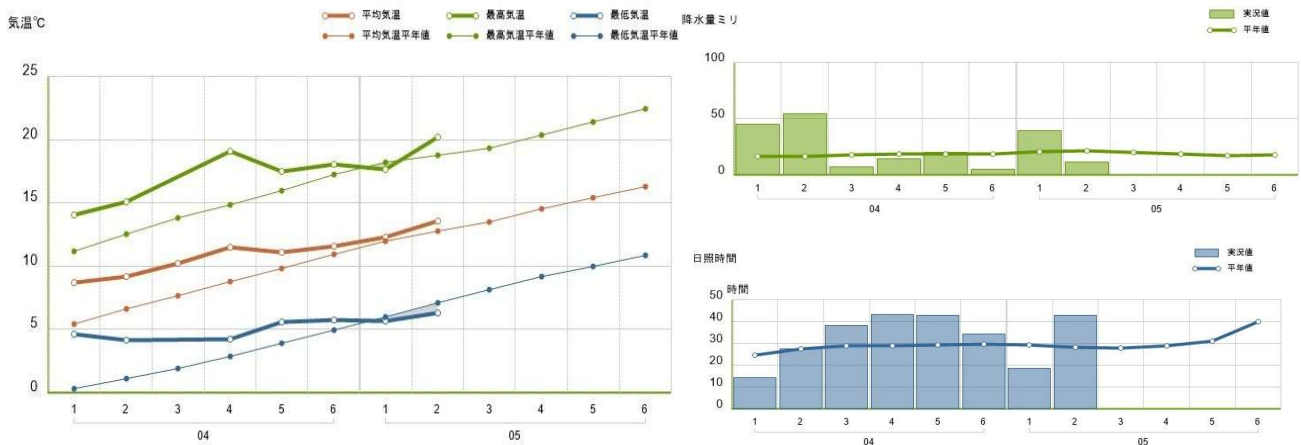


図1 気象経過図（アメダスポイント：鷹巣）

- 4月の1～2半旬は、気温は平年より高く、降水量は平年より多くなりました。3～6半旬の気温は、やや高～平年並、降水量は、平年並～やや少となりました。5月1半旬は、気温は平年並、降水量はやや少となりました。
- 育苗期間を通して、気温が高～平年並、日照時間が平年よりも多く推移したため、一部のハウスで高温による徒長や生育障害が見られました。
- 耕起作業は、好天により作業が順調に進み、盛期は5月6日（平年：5月7日）と1日早くなりました。
- 向こう1か月（5月16日～6月15日）の気温は高く、降水量は多～平年並、日照時間は平年並の予報となっています（仙台管区气象台：令和8年5月14日発表）。特に期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があるため、苗の管理や熱中症等に十分注意しましょう。

2 田植えとその後の管理

【田植えから活着まで】

- 田植えは、日平均気温14℃以上で、できれば最高気温20℃以上の温暖な日に行います。最高気温が15℃以下の低温時や強風下で田植えをすると植え傷みが大きくなり、活着不良や初期生育の遅れにつながるため、悪天候下での無理な田植えは避けてください。
- 去年は、田植え時～直後に低温が続き、苗の活着が不良となったため、茎数が少なくなりました。曆にしたがった作業ではなく、天候を見て作業の判断をしましょう。
- 田植え後の苗は、通常4～5日で活着します。活着を促進するため、水深4cm程度の湛水状態を保ち保温効果を高めます。

【活着後の水管理】

○活着後、分けつは日平均水温で23～25℃で日気温較差が大きい場合に発生が促進されます。水温と地温の日較差を大きくするため、かん水は、「水温の低い朝に入水→日中は止め水（水深2～3cmの浅水管理で水温上昇）」で行います。なお、日中のかん水は、水温が低下するため行わないようにします。

【雑草防除】

- 雑草の草種および発生量に応じた除草剤の選択と的確な使用により、雑草の防除効果が高まります。
- 一発処理除草剤を単用する場合は、**代かきから10日後までを目安に散布**します。異常気象時（高温・低温）の時は薬害が出やすくなるため、使用時は十分に注意してください。
- 除草剤散布後7日間は止水とし、排水路への落水やかけ流しはしません。田面が露出すると効果が低下するため、水が少なくなってきたら静かに入水してください。
- 周辺の水系など環境への影響に配慮し、移植前には除草剤を使用しないでください。

3 本田におけるいもち病防除対策

○昨年度、本田でのいもち病が多く見られました。今年度は、越冬伝染量が多いことが想定されるため、適切な方法で防除を実施しましょう。

【薬剤による葉いもち防除（移植水稻）】

- 葉いもち防除剤は、箱施用剤、側条施用剤、水面施用剤のいずれかを使用します。
- いずれの薬剤も防除効果の持続期間は7月中旬頃までです。

種類	薬剤名	使用時期等	使用量
箱施用剤	ブイゲット箱粒剤	緑化期～移植当日	50 g/箱
	デジタル剤 ※2	移植3日前～移植当日	100倍(500 mL)/箱
	ルーチンフロアブル ※1, 3, 4		25～50 g/箱
	Dr. オリゼ箱粒剤 ※2	床土混和又は播種時(覆土前)～移植当日	50 g/箱
	ブーン箱粒剤 ※2		25～50 g/箱
ルーチン剤 ※2	250 g/10 a		
側条施用剤	オリゼメート顆粒水和剤	ペースト肥料用	500 g/10a
	側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤		100 g/10 a
	側条オリゼメートリディア顆粒水和剤		移植時 移植同時施薬機を用いて側条施用する。
	ツインターボ顆粒水和剤		
	オリゼメート粒剤20		
	スタウトダントツ箱粒剤		
	スタウトパディート箱粒剤 ◎		
	ルーチンパンチ箱粒剤 ◎		
	デジタルミネクト箱粒剤		
	箱大臣粒剤		
	ブーンパディート箱粒剤 ◎		
	Dr. オリゼパディート粒剤 ◎		
Dr. オリゼフェルテラ粒剤 ◎			
Dr. オリゼリディア箱粒剤 ◎			
水面施用剤	オリゼメート粒剤	6月15日頃(6/12～18)	2 kg/10 a

※1 ミネクトプラスター顆粒水和剤は、200倍液で散布量は0.5L/箱とする。

※2 高密度に播種する場合、使用量が1kg/10aまでになるように10aあたりの苗箱数に応じて薬量を50～100g/箱の範囲で調節する。

※3 高密度に播種する場合、ミネクトフォルスターSCの使用量が100mL/10aとなるよう、必要苗箱数に応じて希釈倍数を50～100倍の範囲で調節する。

※4 高密度に播種する場合、ミネクトプラスター顆粒水和剤の使用量が50g/10aまでとなるよう、必要苗箱数に応じて希釈倍数を100～200倍の範囲で調節する。

【注意事項】

- 殺虫剤との混合剤については、剤により使用時期が異なるため注意してください。
- 箱施用剤の25 g処理は、使用箱数が20枚/10 a以上の場合とします。
- 高密度播種は、育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱あたりに乾糶で200～300 g程度播種する場合とし、薬剤の処理時期は移植3日前～移植当日とします。
- 農薬使用にあたっては、ラベルをよく読み、使用基準を必ず確認してください。
- あきたこまちRでは、基本的に穂枯れ(ごま葉枯病菌)に登録のある剤(◎)を選択してください。

【耕種的防除】

○ほ場に放置された補植用の余り苗は、葉いもちの強力な伝染源になるため、補植が終了したら、水田の泥の中に埋めるなどして完全に処分してください。

○雪に覆われず乾燥状態で越冬した稲わらや籾殻は、葉いもちの伝染源となるので、ほ場周辺に放置しないでください。

4 本田における紋枯病防除対策

【薬剤による紋枯病防除（移植水稻）】

○昨年は8月以降の高温・多湿な気象経過により、一部のほ場では、成熟期に上位葉への病斑の進展が確認されました。前年多発したほ場では、薬剤による防除を検討してください。

種類	薬剤名（農薬成分回数）	使用時期等	散布量又は希釈倍数	備考
箱施用剤	稲大将箱粒剤	移植3日前～移植当日	50 g/箱 (※)	使用は前年多発したほ場に 限る。
	スタウトアレスモンガレス箱粒剤			
	エバーゴルフオルテ箱粒剤			
	箱大臣粒剤			
	ブーンレパード箱粒剤			
	ヨーバルプライムEV箱粒剤			
	ルーチンエキスパート箱粒剤			
	Dr. オリゼフェルテラグレートラム箱粒剤			
	ルーチンブライト箱粒剤			
ミネクトフォレスターSC		100倍液 [500ml/箱] (※)		
側条施用剤	箱大臣粒剤	移植時 移植同時施肥機で側条施用	1kg/10a	

※高密度に播種する場合、使用量が1kg/10aまでとなるよう、10aあたりの苗箱数に応じて薬量を50～100g/箱の範囲で調節する。

【耕種的防除】

○窒素肥料の過剰施用や密植は発病を助長するため、適正な施肥と栽植密度とします。

秋田米栽培情報LINE発信中！！



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信します。

- 秋田県内の水稻生育状況
- 水稻・大豆の技術情報
- 異常気象対策
- その他、秋田米に関する情報 など



春の農作業安全運動期間（令和8年4月20日～5月31日まで）

毎年、農作業中の事故により多くの方が亡くなっています。特に、農繁期となるこの時期は事故が多くなります。忙しい時こそ安全確認を徹底し、家族や従業員とも日頃から予防対策を考えましょう。また、近年は5月でも気温の高い日が多いため、熱中症にも十分注意し、こまめな水分補給を心がけてください。

ツキノワグマ出没警報（令和8年4月14日から令和8年5月31日まで）

4月のクマの目撃件数が増加し続けています。実際、5月5日には、由利本荘市で田んぼの見回り中に襲われる被害が発生しました。見通しのよい場所であっても、クマが水路に沿って移動している場合など気づきにくいこともあります。農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意しましょう。



ツキノワグマ情報 | 美の国あきたネット
www.pref.akita.lg.jp

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は6月中旬頃～